



飛躍

(第2回宇治ロードレース大会から)

市議会議員 野口一美



明けましておめでとございます。昭和五十八年の新春を迎え市民の皆様には、市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
昨年本市にありましては、市民待望の山城総合運動公園「太陽が丘」の一部開園に始まり、宇治市観光センターの開館、また長年の懸案事項でありました国鉄宇治駅前も様相を一変するなど新しい宇治市が実現されようとしております。これひとえに、市民の皆様のご協力とご支援の賜物であります。
さらに本年におきましても、市勢発展のための施設整備が大きく前進しようとしております。しかし、今日の財政状況は国・地方をとわず厳しいものがあります。私たちは、この期にありましても市民の皆様方のご意見、ご要望を反映した議決機関として、執行機関とも密接な連携を保ち、宇治市の発展と市民生活向上の為に、精一杯の努力をしまる所存であります。
今後とも市民の皆様の変らぬご支援と、ご協力をお願い申し上げますと共に、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のごあいさついたします。

市長 池本正夫



新年のごあいさつ

市民の皆様、明けましておめでとございます。輝かしい昭和五十八年の新春を、めでたく迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。
私も市長に就任して三度目の新しい年を迎えました。昨年は、世界的な経済不況と国の財政再建などの影響から、厳しい財政状況でありましたが、計画的、効率的な行政をすすめる一方、皆様のご協力を得て教育、福祉、建設などの重点事業は、おおむ当初の計画どおり進展させることができ厚くお礼申し上げます。
今年、福祉の拠点である総合福祉会館が竣工し、市民文化センターをはじめ懸案の都市施設などの建設が本格化します。一方、障害者福祉都市としての取り組み、六十三年度国体に向けての諸準備も積極的に取り組みたいと考えております。本市の人口は、間もなく十六万人になり、名実ともに京都市南部地域の中核都市となるよう皆様とともに頑張りたいと存じます。
最後に、市民の皆様のご健康とご繁栄を心から祈念申し上げますとともに、皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。年頭のごあいさついたします。

新しいふるさとづくり

点から輪へーひろがる地域文化



写真右から北岡さん、野口議長、池本市長、谷岡さん、松林さん。

子どもとごま

開きました。私も昨年、ボランティアの方の激励に訪れ、電話相談

取り組まれますが、その年限りでなくいつまでも児童年であり、草

明日の宇治市を語る

市制施行31周年を経た宇治市は、住みたい住んでよかった町づくりをめざして、着々と歩みを進めています。そこで、池本市長をはじめ5人の皆さんに、宇治市観光センターにお集まりいただき、新しいふるさとづくりについて話し合っていました。

新春座談会

この郷土を 守り育てる

司会：皆さん、明けましておめでとうございます。宇治市は今年三十二周年を迎え、人口も十六万人になろうとしています。そこで、これまでを振り返ってみたいと思います。野口議長さんは小倉でお生まれとか。

野口：生まれも育ちも小倉でして、物心ついたころの巨椋池は一面田んぼでした。四十年ごろから家が建ちはじめ、今では近鉄以西だけで市発足当時以上の人口になっています。ようやく人口の動きも落ちつき、いろいろな施策や事業が軌道に乗ってきましたね。

北岡：私は舞鶴の漁村の自然の中で生まれ、三十五年に大久保町に嫁いできました。当時は私の家から西は田んぼで、秋は見わたす限り黄金のムシロでした。遠くに見える隣村の灯を漁火と錯覚し、主人によく笑われましたね（笑い）。今は住宅が建ち並びずいぶん変わりました。市長さん、お生まれはどこですか。

市長：私も議長さんといっしょで小倉なんです。干拓前の巨椋池は一面のハス池でしてね、父親につれられて舟に乗って出たことを覚えています。その後、宇治に移りましたが、小さいころはよく平等院の池へ魚とりに行つて坊さんに怒られましたよ（笑い）。

宇治のすばらしい景観は宇治川に代表されるように生きつづけて

- 出席者**（順不同）
- 北岡 綾子さん（前・宇治市政モニター・大久保町山ノ内在住）
 - 谷岡 武雄さん（宇治市総計画審議会委員長・大久保町北ノ山在住）
 - 松林美戸子さん（国際ソロプチミスト宇治・会長・宇治山田在住）
 - 野口 一美 宇治市議会議長
 - 池本 正夫 宇治市長
 - 司会 山本 司郎 宇治市文書広報課長

市民文化は 地域から

北岡：育友会は範囲も広がるので、心のふれあいの場として参加しています。地域が一つのコミュニティとしてまとまるのが必要です。地域では文化祭などが開かれ盛り上げていますが、旧市民と新しい市民との調和が今ひとつという面がありますね。

松林：最近、市民の文化活動が活発になっていますが、それぞれの組織づくりが横につながることで、宇治の文化といえます。地域文化づくりには役立つのでは。野口：地域活動といえは、地区公民館は活発に利用されていますね。中学校区に一館ずつ建設する計画

はすばらしいことだと思います。そして、そこで活動された人がそれぞれの地域で輪を広げてもらえば、地域文化は地域住民から育っていくのではないのでしょうか。松林：文化といいますが、私たち市民が誇りうる地域の文化・歴史に対する認識を新たにすることがあります。そして、その文化向上のためにはまず施設づくりをすすめてほしいですね。それと、宇治茶の本場でありながらティーセレモニーに対する一般の考え方や盛り上がりが少ないようですが、地場産業としてのお茶の面からもっと発展させてほしいと思います。

市長：市では地域づくり・文化づくりの場として公民館、集会所の建設をすすめています。地域住民の連帯感を深め、郷土愛を育てていくためにも大切だと思えます。谷岡：市長さんがお話されたように、文化を創造する場が必要ですね。それもジャンルの違った複数の文化を。一つは歩行者専用ゾーンのをつくり若者たちが音楽などの芸術を楽しめる場、もう一つは、高度な文化を提供できる場としての市民文化センターの建設ですね。市長：宇治市の市民文化の発展は行政が責任をもつて進めていかなければなりません。まず、市民文化センターをつくることにしています。このセンターは、文化創造の拠点であり来年十月には完成させたいと考えています。

育つ大人に

司会：最近、青少年問題が社会問題になってきています。議長さんは育友会の会長をされてご苦労が多いと思います。

野口：子を持つ親として、子どもの非行には大きな関心を持っています。非行は家庭、しつけの問題ではないでしょうか。父母を大切にし、夫婦仲が良く、笑いのある家庭から非行は生まれません。

北岡：ほんとに、そのとおりだと思います。子どもと共に親も育つていかなければなりません。地域の大人が鏡であり、地域全体の大人のあり方が大切です。子どもは大人を良く見えていますからね。

谷岡：毎日、大学生を相手にしていますが、青少年には地域社会が暖かく見守ることが大切ですね。市長：私も青少年問題は重要な課題と考えています。何とか解決したいと一昨年に青少年対策室を設置し、昨年二月から、だれにも言えない青少年の悩みを解決する手助けをと、「宇治こころの電話」を



を受けましたが、青少年の悩みは実に複雑ですね。相談員の方が悩みの解決に向けて真剣に取り組んでいただいている姿をみて、設置してよかったと思います。これも、ボランティアの方をはじめ、市民の皆さんのご協力のおかげと感謝しているんですよ。

司会：松林さんは国際ソロブチミストの活動で青少年問題に取り組んでおられるようですが、

松林：ええ、活動の一環として、自分自身が学ぶ場として青少年セミナーを開いています。やはり、家庭に尽きるようですね。家庭の暖かい雰囲気づくり、これが青少年にとって一番大事ですね。

北岡：私も三人の子どものおりましたが、思いやりの心は全てのことに通じるのでは。この気持を大切にしなければと思っています。大松林：福祉についても同じことが言えますね。何々年として行政が

害者年という姿勢が大事ですね。谷岡：そして、行政は常に弱い者の味方でなければなりません。老人の問題も同じだと思います。

市長：そのとおりですね。宇治市は昨年と今年の二年間、障害者福祉都市の指定を受け、障害者の方が安心して住める環境づくりに努めていますが、二年に終わらさず引き続いて努力していきます。

今月十九日、待望の総合福祉会館がオープンしますので、ここを拠点にした福祉の町づくりを進めたいと考えています。

国体は

市民総ぐるみで

司会：毎日を健康に過ごすことは市民だれもの願いです。本市では市民のスポーツ熱も、太陽が丘のオープンで一段と高くなっています。また、六十三年には京都国体

が開かれる予定で、市民ぐるみの取り組みが必要だと思います。

北岡さんはママさんバレーをやっておられるようですが、

北岡：スポーツは健康づくりと親ばくでやっており楽しくてよい。主人にバレーマママさんになるなよ(笑い)なんて言われていますが、楽しい心のふれあいができるばいばいなあと思っています。

国体はスポーツを通じての交流ですから、市民のスポーツ熱を高めるうえからもぜひ成功してほしいですね。

野口：京都国体が二巡目になりましたが、これまで勝つのが至上命令になっていた面もありましたね。すべての市民が、開催して良かったと言われるものにしたいですね。谷岡：京都国体は種目が多くの市町に配分されているのが特色と聞いています。市長さん、道路の整備はどうなっていますか。

市長：宇治市では水泳、サッカー、ソフトボールの三種目が指定を受けました。やはり、国体は市民総ぐるみで取り組み、成功させたいと思います。

競技施設は太陽が丘が中心になると思いますが、これに伴う道路などは府においても計画され、すでに着工されているところもあります。市でも計画的に整備し、万全の体制をつくることにしています。国体といえば選手だけでも何千人と来られます。ところが市内の宿泊施設が現状では不足していますので、宇治の良さを知っていただくためにも、民宿という形で市民の皆さんにも協力をお願いしたいと考えています。



希望と信念をもって

ふるさとづくり

司会：市では「住みたい住んでよかった都市」をめざして、昭和五十年に総合計画を策定し、実施計画に基づいて計画行政をすすめています。そこで、将来の町づくりについてはいかがでしょう。

市長：まず、市民の皆さんに宇治にふるさと意識といえますか、郷土愛をもつていただけたら町づくりを進めねば———と思っています。先日、市議会で市長の夢は、と質問を受けました。近い将来も含めてお話ししました。

そうです。中宇治では太陽が丘が大きく位置付けられます。全国規模の競技会などが開かれ、多くの人々が来られますので、宇治橋通りの近代化、宇治に定着した観光づくり、国鉄宇治駅の南と北側の整備などが大きな課題ですね。なかでも駅ビル構想は、商工会議所を中心に取り組んでいただき、夢が実現へ進みつつあります。

また、東宇治の北部は京都市との接点として、ターミナルとして、商業の集積地として形成していきたいと思っています。また、西宇治は西の玄関口として整備する計画の中で位置付けていきたいと考えています。

松林：市長さんの夢をお聞きして、一市民としてうれしく思っています。一日も早く実現してほしいですね。一日も早く実現してほしいですね。そして、観光や国体などで宇治に来られる人々を、市民が心をこめておもてなしするとともに訪れた人の心に残るような町づくりをお願いしたいものです。

谷岡：総合計画策定に参画した一人として、緑ゆたかな住みよい住んでよかった町づくりの方向は不变であってほしいと思います。魅力をつくり、しかも活気みなぎる心のなごむ町づくりを市民参加ですすめてほしい。そのためにも未来を展望した市政の推進が大事では

北岡：谷岡先生が言われた「心のなごむ町」は私も同感です。子どもが巣立、帰って来たとき心がなごむ町、そうした町になるよう母と口して願っています。

野口：そうですね。まず、子孫に誇れる町づくりをしなければならぬと思います。これまで、何かを進める場合、総論賛成、各論反対と言われることがありましたが、市民ぐるみの協力をお願いしたいですね。市議会でしても、方向を正しく見極め誇れる町づくりをめざす決意です。

市長：八〇年代は地方の時代といわれて久しいですが、やはり地域に根ざした自治が求められているように思われます。本市は比較的新しい市民の人が多いですが、今の子どもたちにはこの宇治を「よきふるさと」として大きく育ててもらいたいと願っています。

今年には行政改革などから厳しさが予測されますが、自らの力で、希望と信念をもって頑張りたいと考えています。市民の皆様のご協力を心からお願いたします。

司会：どうも本日はありがとうございました。皆様ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

新春こどもコーナー

ふるさとむかし話

広野町に「茶屋裏」というところがあります。むかしは茶屋裏の東部を南北に通じている奈良街道に沿って茶屋があり、往き来の旅人が、ひと休みしたところです。その茶屋は、大亀茶屋と呼ばれていました。国土地理院が発行している五万分の一地

伏拝と大亀茶屋



どういう意味か、調べてみることにしましょう。奈良街道は、このあたりで小高くなっていて、西の方を眺めると、石清水八幡宮のある男山(八幡市)がよく見えました。街道を通る旅人たちは、ここで足を止めて、遠くにある石清水八幡宮を拝むよ

休憩所となっていくます。やがてそこには茶屋が建ち、旅人を休ませるようにになりました。人々はその茶屋を「拝み茶屋」と呼んだのです。ところが、ずっと後の時代になると、人々はそこが遠くにある神社を拝む場所であることを忘れて、拝み茶屋の意味が分からなくなり、「大亀茶屋」となまってしまったのです。いま、奈良街道の西側には

形図などには、いまでも大亀茶屋の名が記されています。茶屋裏の地名は、この大亀茶屋の裏側にあたるところから名付けられたものです。大亀茶屋と言っても、そこに大きな亀が飼ってあった訳ではありません。むかしの記録を調べてみると、このあたりは「伏拝」と呼ばれていたことが分かります。伏拝とは

うになったのです。この風習は、意外に古くから行われたもので、平安時代後期にここを通って奈良へ向かった左大臣藤原頼長も、伏拝で車を降りて八幡宮を礼拝したことを記録しています。往き来の人たちが足を止めて、はるか遠くの神さまを拝むことを「伏拝」といい、このような場所は、ちよつとした

伏拝八幡宮という小さな神社があつて、このあたりが八幡宮を拝む場所だったことを教えてくれています。でももう茶屋はありません。このように、地名のなかには、元の意味を離れてしまつて、とんでもない呼び方になってしまうものも、たくさんあるのです。(歴史資料室)

指人形をつくらう



〈用意するもの〉

- シャンプー・ソースなどの容器(よく洗つたもの)
- 包装用ひも・テープ
- 目・口・鼻・耳などに使うキャップ いろいろ
- ビニールテープ・カッターはさみ・ホチキス・接着剤(プラスチック用)
- 布の切れ端



〈お姫様指人形の作り方〉

首・手首は包装用のリボンでしかりとめちよう結びにする

布きつりに折リ端をホチキスでこの袋を作るそれを裏がえして首・手首のところはあけておく

髪を好みにあわせてカットする。目・鼻・口などは紙に書いて切りぬき顔にはる(又は油性のフェルトペンでかく)

ひもをたばねて髪毛を作る。ほじいた毛糸を使えばウェーブのかかったヘアになる

ひも(ものたば)結びめを中にしてひもをひろげる

冠をかぶせ髪毛をかため

キャップ

2コ用意する

〈ロボット指人形の作り方〉

首・手首はビニールテープでしかりとめる

顔を目・鼻などにあったキャップを接着する

接着する

フェルトペンのキャップ

接着する

切る

目・鼻・耳などに使うキャップはいろいろあつめておきましょう

2コ用意する